

# 下大和田谷津田だより

2003年2月号

## 第20回谷津田プレート・プロジェクト(YPP) どんど焼きと昔遊び

1月25日 晴れ

快晴の谷津田で昨年に引き続いて「どんど焼きと昔遊び」を行いました。

どんど焼きには古くなったオダ木や田んぼの枯れ草を組んでやぐらを作りました。前回同様、火起こしに挑戦。今年はメンバーが作った火起こし器のお陰で、火種はあまり苦労せずにできるようになったのですが、なかなか炎にならず苦戦。30分以上かかったでしょうか、息の吹きすぎでみんな頭がクラクラしてきた時ようやく火がついて、大歓声がわき起こりました。やぐらはあっという間に火につつまれ、竹が豪快な音を立ててはじけました。竹の先に餅をつけて焼いて食べたり、子どもたちも一緒に材料を切ったお雑煮を食べたり、お腹も満足すると寒さも平気です。

昔遊びでは子どもたちがペイゴマの回し方を教えてもらう一方で、けん玉の達人のお子さんから大人が逆に遊び方を教えてもらうシーンも。また、凧を作って揚げたり、近くから竹を見つけてきて弓矢を作った的あてをしたり、楽しく過ごしました。伝統的な遊びは世代を超えた交流ができるところがいいですね。

田んぼの草取りは一部の参加者の方が寒い中、一生懸命やってくださいました。次回、2月15日のYPPでは、本格的に田んぼの草取りとあぜ作りをします。小さなお子さんでも年輩の方でもそれぞれ作業を楽しめますので、どうぞお集まり下さい。

(参加者：大人15人・高校生4人・小学生7人・乳幼児2人、報告：高山邦明)

## 第37回「下大和田谷津田の 観察会とゴミ拾い」報告

1月5日

今年の冬は例年になく寒いためか開花していたのはセイヨウタンポポとオオイヌノフグリが1つずつ、わずか2種であった(比較：2002年1月6種、2001年1月8種)。田圃の氷は厚いところでは1.7cmもあった。水路本流でメダカ、カワニナ、ヨコエビが見られた。真冬の観察会ではあったが昆虫の冬越しの姿を見ることが出来て興味は尽きなかった。木株の根元のへこみなどで集団越冬中のマルカメムシ、アオゴミムシの仲間の一種や単独で成虫越冬中のツチイナゴ、クビキリギス、幼虫越冬中のサンガメの仲間、暖かくなつて出てきたナナホシテントウなどと出会えた。その他、チョウセンカマキリの卵のう、スズバチの巣と思われるもの、モズのはやにえなども見た。

野鳥：アオジ、ホオジロ、メジロ、セグロセキレイ、ダイサギ、トビ、カケス、ハシブガラス。

(報告：網代春男)

## 下大和田季節のたより

1月18日 早朝の谷津は気温が氷点下5度近くまで下がり、一面霜でまっ白。そんな寒さの中、休耕田の草地からアオジ、エナガ、シジュウカラのにぎやかな声が聞こえてくる。モズが止まり木から低く飛んで、アオジに襲いかかる姿も。朝日が田んぼにさし込んで来ると、セグロセキレイのペアが飛来して、鳴き交わっていた。(高山)

インフルエンザが猛威をふるっているようですが、皆さんは体調を崩されてはいませんか？例年より寒い今年の冬ですが、田んぼではアカガエルの産卵がはじまっています。お近くの田んぼをのぞいてみませんか？

高山邦明